経済学部

Ⅰ　教育水準　.....　教育 10-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 10-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準を上回る

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、幅広く体系化された８つの講座で編成され、定員充足率（昼間主 1.14、夜間主 1.21、合計 1.15）および専任教員一名当たり学生数（24.5 名）も適切な人員配置にあることを示していることに加えて、人事に当たっては、「経済学研究科教員選考基準」を定め、研究業績・教育経験の他、博士学位取得を条件とするなど、厳格で片寄りのない採用を組織的に行うなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、将来計画・実施・事後評価の観点から３委員会による組織的な取組を実施するとともに、FD 小委員会により、講義内容・評価基準の統一、シラバスの相互チェック、授業評価アンケート結果の共有等が図られ、PDCA サイクルを確立するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、専門科目の学年配置が科目番号で識別され、段階的・体系的履修を学生に分かりやすくしているとともに、学部・大学院共通科目の設置、アドヴァンスト・コースによる大学院教育との連携、少人数を徹底したゼミ教育、現代的テーマに対応した科目の開講、さらに３大学コンソーシアム「EU インスティテュート・ジャパン（EUIJ）関西」の教育プログラムに向けた EU 関連科目の開講と提供等、特徴ある編成が見られることに加えて、民間企業・官公庁・研究機関から講師を招き、社会人特別講座を定期的に開催するというように、現代社会との連携を意識的に図るなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、各々の要請に対して個別的な対応を図

るカリキュラムの編成上の工夫がなされており、経済学の段階的・体系的履修とともに、現代的課題を取り扱う科目の配置、意欲的学生のためのアドヴァンスト・コースの設置、実践的問題発見・解決能力の育成のための実践的学習機会の提供、大学コンソーシアムへの参加、他学部履修・協定校留学による取得単位の卒業要件算入に加えて、３年次編入制度による多様な入学制度の提供等の優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数教育を重視し、基礎演習（１年次）、外書演習（２年次）、研究指導ゼミ（３・４年次）の４年間一貫した教育体制をとるとともに、研究指導ゼミでは徹底した少人数化の下、ディベートや共同論文作成を通じた教育がなされ、学外２商大（一橋大学、大阪市立大学）との討論会開催・参加（第58 回大会に 16 ゼミ参加）等継続的で活発な活動を展開していることに加えて、時代ニーズに対応した科目の開講や情報機器の活用、ティーチング・アシスタント（TA）の活用（延べ 45 名配置）、シラバスに授業評価アンケートの結果を反映させるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスで教科書、参考書に加えて当該科目履修前後の関連科目を明示するとともに、１年次入学時及び２年次開始時にガイダンスを実施し、専門科目解説書『経済学研究のために』と当該学期講義の解説『経済学・経営学学習のために』を配布して自発的な学習のための支援をしている。教員ウェブサイト上では、講義ノート、配付資料、参考文献、練習問題解答を公開して自主的な学習を着実に促進している。図書館の夜間休日開館や情報処理教室の平日夜間利用等を確保している。そして、学習時間を確保するために履修登録に上限を課する一方、学生の主体的学習にインセンティブを与えるために、優秀な卒業論文及び学業成績に対して表彰制度を用意するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、経済学を用いた基礎的思考能力の獲得（全科目の合格率が 64%、必修科目では 81%）と高い理解度の獲得（合格者に占める優の割合：全科目で 37%、必修科目で 45%）が得られているとともに、卒業状況（標準卒業年数卒業者が約 80%で、1 年遅れを含む卒業者は約 90%）から、ほぼ所定期間内に学力・資質・能力の獲得がなされると推察されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、卒業生アンケート結果から、カリキュラム、シラバス、授業内容、成績評価等の学業成果についての評価、並びに経済学部での教育についての総合評価は、いずれも高い水準であり、高い満足度を示すなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生の就職先は、中でも金融・保険、製造業、公務の比率が特に高く、経済学部で得た専門知識、論理的思考能力、問題発見・解決能力を発揮できる雇用の場に多くの人材を供給するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生就職先アンケート調査によれば、採用時に期待する点は実践的問題発見・解決能力、論理的思考能力、潜在能力、リーダーシップ、協調性等、また、卒業生の優れている点としては総合的学力、潜在能力、論理的思考力など、社会科学系学部の教育に対して期待するものはコミュニケーション能力、総合的学力、幅広い知識等であり、いずれの項目も経済学部が注力する項目であるとともに卒業者に対する関係者の消極的評価は極めて少ないなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・

就職の状況は、経済学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。